

第6学年 国語科学習指導案

平成30年10月19日（金）第6時限

授業学級 6年1組 32名

指導者 山本 美佐

- 1 単元名 感動の中心をとらえよう
教材名 『海のいのち』（東京書籍6年）

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、4月に物語文「風切るつばさ」の学習で、中心人物の変容について読み取って物語のクライマックス・主題に迫り、イメージ豊かに朗読する学習を行った。さらに、中心人物の心情の変化を押さえたり物語の山場を考えたりする学習を積み上げてきている。

また、6年間朝読書が続けてきており、読書に対する関心は高く、少しの時間でも本を広げて読もうとする児童は多い。児童の感じ方は様々であるが、今まで積み上げてきた読む力を生かして、物語が自分に強く語りかけてくることを考えながら読む力を付けていきたい。

(2) 単元観

本教材「海のいのち」は、海という自然を舞台にして、中心人物・太一が周りの人々との関わりを通して成長していく姿が描かれている。漁師の子どもとして生まれた太一。小さい時から父と一緒に漁に出ることを夢見ていたが、父がクエと格闘して命を落としてしまう。いつか一人前の漁師になって、父を死に追いやったクエに対して仇を取りたいと考えていた太一だが、実際にクエと出会ったときに、太一の心に葛藤が芽生えクエを討てなかった。それはいったいなぜか。

色彩表現、比喩表現などの情景描写をもとに登場人物の心情を想像することができ、周囲の人間の存在が中心人物の成長に大きく関わっていることなど、児童の読みを深めることに適した教材である。太一をはじめ「海」で生きるそれぞれの人物像をとらえ、人物と人物との関係を手がかりにして、太一の心情の変化とその理由について対話を入れた共同的な学びによって深めていきたい。

また、副教材として、同じ立松和平の「いのちシリーズ」を取り上げる。例えば、「山のいのち」は、山での出来事をきっかけにして、少年静一の心に変化が起きる作品である。「自然と人間の共生」という同じテーマをもった「いのちシリーズ」を自分で選び、「海のいのち」と同じように登場人物の相互関係や心情、描写を手がかりに読み取らせて、その物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめることを単元のゴールとする。

(3) 指導観

本時である第一次では、児童が今までに読んできた文学作品の中で、自分の心に響いたものやおもしろかったと感じているものなどを出させ、その理由を聞く。そして文学作品のおもしろさや作品の主題をとらえるために、人物関係図を書くという方法があることを知らせ、これからの学習への見通しをもたせる。

第二次では、まず「海のいのち」の全体構造をつかませる。そして物語の設定や登場人物をおさえる。さらに、登場人物の相互関係をおさえるために、人物の関係を図に表す。そこでとらえた人物関係図をもとに、中心人物・太一の考えの変化を読み取っていく。また、単にクライマックスはどこかと尋ねるのではなく、「太一が村一番の漁師になったのはいつか?」「クエをとらなければ本当の一人前の漁師になれないと思う太一が、なぜクエを討たなかったのか?」といった児童が一番疑問と思うであろう問いを投げかけ、人物関係図を手がかりに解決していく。泣きそうになった次の瞬間、ふっとほほえみ笑顔をつくった太一の内面の大きな変容に気付かせたい。

第三次では、同じ作者の「いのちシリーズ」の教材を使い、第二次で習得、活用した学びを生かして、人物関係図にまとめる。そして人物関係図や優れた叙述を手がかりに中心人物の心情の変容を考え、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを自分の言葉でまとめる。このような活動を通して、文学的な文章の解釈と読書に広がりをもたせていきたい。

3 単元の目標

- 物語の登場人物を人物関係図に表すことによって、それらの相互関係や心情の変化、場面の情景描写をとらえることができる。
- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめることができる。

～学校図書館の活動を通して付けたい力(本校系統表)より～

【情報の表現・伝達】相手や目的に対して、適切な方法を選んで表現・伝達について工夫する。

(文章, スピーチ, ポスター, リーフレット, パンフレット, 新聞, 紙芝居, ペープサート, 劇, プレゼンテーション等)

4 重点指導事項

【C 読むこと(1)エ】登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・立松和平の「いのちシリーズ」を読み、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	・中心人物の変容や他の登場人物との関わりや情景描写を関連付けながら読み取り、物語が最も強く語りかけてきたことをまとめている。 【C(1)エ】	・物語に使われている比喻や情景描写などの表現の工夫に気付いている。 【伝国(1)イ(ケ)】

6 学習指導計画(全10時間)

次	時	学習内容	評価			
			関	読	言	評価規準・評価方法
一	1 本 時	○登場人物の関係が分かる人物関係図を作成しながら物語を読む方法をつかむ。		○		【読】登場人物の関係性をとらえて考えたことを人物関係図に書いている。 (発言・ワークシート)
二	2	○「海のいのち」を通読し、物語の展開をとらえ、初発の感想を書く。	○			【関】物語に興味をもち、初発の感想や考えたいことを書こうとしている。 (発言・ノート)

三	3	○太一にとって与吉じいさはどのような人物なのかを考え、太一と与吉じいさの関係を人物関係図に表す。 ・自分の選んだいのちシリーズで人物関係図をかく。		○	【読】 根拠となる叙述をもとに、太一と与吉じいさの相互関係を書き表している。 (発言・ワークシート)
	4	○太一にとって父母はどのような人物なのかを考え、太一と父母の関係を人物関係図に表す。 ・自分の選んだいのちシリーズで人物関係図をかく。		○	【読】 根拠となる叙述をもとに、太一と父母の相互関係を書き表している。 (発言・ワークシート)
	5	○太一にとってクエとはどのような存在なのかを考え、太一とクエの関係を人物関係図に表す。 ・自分の選んだいのちシリーズで人物関係図をかく。		○ ○	【読】 根拠となる叙述をもとに、太一とクエの相互関係を書き表している。 【言】 比喩や情景描写からクエに対する太一の思いをとらえている。 (発言・ワークシート)
	6	○物語全体の人物関係図を完成させ、太一の心情の変化をとらえる。 ・自分の選んだいのちシリーズの人物関係図に書き加える線があるか考える。		○ ○	【読】 物語全体の人物関係図をもとにして、クエを討つのをやめた太一の心情の変化をとらえている。 【言】 比喩や情景描写から太一の心情の変化をとらえている。 (発言・ワークシート)
	7	○人物関係図をもとに、「海のいのち」が最も強く語りかけてきたことを考える。		○	【読】 人物関係図をもとに、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを書いている。 (ワークシート)
	8 ・ 9	○自分が選んだ作品の人物関係図を完成させ、それを手がかりにその物語が最も強く語りかけてきたことを考える。		○	【読】 読んだことをもとに、登場人物の関わりを人物関係図にまとめ、中心人物の変容とその物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめている。 (ワークシート)
	10	○物語が最も強く語りかけてきたことを人物関係図をもとに発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。		○	【関】 自分が選んだ本についての自分の考えを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ワークシート)

7 本時の学習 (1/10)

(1) 本時の目標

○昔話「桃太郎」の分かりやすい人物関係図を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

【読】 登場人物の関係性をとらえて考えたことを人物関係図に書いている。

(言葉・矢印・位置)

(3) 達成基準（ルーブリック評価）

A	B	C
人物と人物との関係を考えながら、下記の要素を入れて人物関係図を書いている。（人物像・関係性・矢印・線の太さ・位置）	人物と人物との関係を考えながら、下記の要素を入れて人物関係図を書いている。 (関係性・矢印・位置)	人物と人物の関係を線で結び、人物関係図を書いている。

(4) 準備物

- ・桃太郎の資料 ・立松和平「いのちシリーズ」の本

(5) 学習の展開

	主な学習活動 ・予想される児童の反応	○指示・支援等 【 】評価規準 ★支援を要する状況と判断される児童への手立て
つかむ (5)	1 人物関係図から分かることをつかむ。 ・登場人物が分かる。 ・登場人物の関係が分かる。	○ドラえもんの人物関係図を提示し、そこから分かることを共有する。 ★簡単な答えでも自由に発表させたりする中で友達の意見を聞きながら考えるように助言する。
	昔話「桃太郎」の人物関係図を書こう	
考えを持つ (10)	2 「桃太郎」の話で人物関係図を書く。 ・物語を読んで、人物関係図を書く。	○登場人物を確認する。 ○「桃太郎」のお話をもとに、まず自力で書かせる。
学び合う (15)	3 教師モデルの人物関係図を比較しながら、書き方の工夫を考える。 ・言葉を書くと関係がよく分かる。 ・中心人物は中央に書くと見やすい。 ・線の太さを変える。	○さらに分かりやすくなる方法を考えさせる。 ○ペアや班で話し合わせる。 ○書き方の違う図を比べながら、より分かりやすい人物関係図の書き方を考えさせる。
まとめる (5)	4 人物関係図の書き方の工夫を確認する。 (言葉・矢印・線・位置) ・自分の書いた人物関係図に、書き方の工夫をもとに書き込みをする。	【読】登場人物の関係性をとらえて考えたことを人物関係図に書いている(言葉・矢印・位置) 【発言・ワークシート】 ○人物関係図をもとにすると、物語が伝えたいことを分かりやすく表現できることを知らせる。
振り返る (10)	5 授業の振り返りをする。 6 「海のいのち」の学び方について見通しをもつ。	○人物関係図という言葉を使って、振り返りをさせる。 ○「海のいのち」や他のシリーズで人物関係図を手がかりにして学習していくことを伝える。

(6) 板書計画

